

兵庫県「感染防止安全計画」に基づく対策（令和4年7月版に準拠）

イベント名	第50回青年経営者全国交流会
開催日時	2022年9月15日（木）13時00分～9月16日（金）12時00分
主催者	主催：中小企業家同友会全国協議会（中同協） 設営：兵庫県中小企業家同友会（兵庫同友会）
作成者	兵庫県中小企業家同友会
策定日	2022年8月31日

1.（チェックリスト）具体的な対策

①飛沫の抑制（適切なマスク着用の推奨や大声を出さないことの徹底）

<チェック項目>

- 飛沫が発生するおそれのある行為を抑制するため、適切なマスク（不織布マスクを推奨。以下同じ。）着用の推奨や大声を出さないことを周知・徹底し、そうした行為をする者がいた場合には、個別に注意、退場処分等の措置を講じる。

	身体的距離（※）が確保できる ※2m以上を目安		身体的距離が確保できない	
	屋 内（注1）	屋 外	屋 内（注1）	屋 外
会話を 行う	着用を推奨する （十分な換気など感染防 止対策を講じている場合 は外すことも可）（注2）	着用の必要はない （公園での散歩、ランニ ング、サイクリング等）	1日目分科会 着用を推奨する （休憩室等限定ス ^パ ー スでの会話等）	着用を推奨する （屋外イベントでの 近距離の会話等）
会話を ほとんど行 わない	着用の必要はない （図書館での読書、芸術 鑑賞等）	着用の必要はない （同上）	2日目全体会 着用を推奨する （通勤電車、人混み の中等）	着用の必要はない （徒歩での通勤など 屋外で人とすれ違う ような場合）

（注1）屋内とは、外気の流入が妨げられる、建物の中、地下街、公共交通機関の中など

（注2）換気及び距離が保たれた会議等で発言しない場合は「着用の必要はない」

（注3）「着用の必要はない」場面のうち、お年寄りやと会う時や病院に行く時などハイリスク者と接する場合にはマスク着用を推奨

（*）大声の定義は「観客等が、通常よりも大きな声量で、反復・継続的に声を発すること」とする。

（*）「大声」と「会話」は異なる。

<具体的な対策>

- 1）（事前）案内リーフレット、ならびに（当日）ガイドブックにおいて、参加者に「マスクの着用」の案内を行う。
- 2）1日目分科会では、開会前・開会時に進行を担当する室長より「正しいマスクの着用」をよびかける。また、プログラム中は各テーブルでの進行を担当するグループ長より周知徹底を行う。改善がみられない場合は、室長の判断で退席をお願いする。（1日目：参加者は会話を行う、グループ形式）

- 3) 2日目全体会では、開会前・開会時に司会より「正しいマスクの着用」をよびかける。(2日目：参加者はほんとに会話を行わない、ホールでのシアター形式)
- 4) 参加者に「不織布マスク」の配布を行う。

②手洗、手指・施設消毒の徹底

<チェック項目>

- こまめな手洗や手指消毒の徹底を促す(会場出入口等へのアルコール等の手指消毒液の設置や場内アナウンス等の実施)。
- 主催者側による施設内(出入口、トイレ、共用部等)の定期的かつこまめな消毒の実施

<具体的な対策>

- 1) (事前)案内リーフレット、ならびに(当日)ガイドブックにおいて、参加者に「アルコールでの手指消毒」の案内を行う。
- 2) 1日目、2日目ともに、開会前・開会時に司会(室長)より、「アルコールでの手指消毒」を呼び掛ける。
- 3) 会場と協力して、建物入口(入場時)と各部屋入口にアルコール消毒を設置する。
- 4) 施設内(出入口、トイレ、共用部等)の定期的かつこまめな消毒の実施を会場で実施(依頼)する。

③換気の徹底

<チェック項目>

- 機械換気による常時換気又は窓開け換気

<具体的な対策>

- 1) 会場施設は、それぞれ「常に外気を取り入れた空調システムで換気」を行っていません。そのほか、窓を開けることができる会場では二方向での換気を行う。
- 2) 見学分科会では、エアコンの外気導入モード機能を使うことにより、車内の空気を入れ替えると同時に車内では会話をしないプログラム進行を行う。見学分科会会場では、常時または定期的(30分に1回)に換気を行う。
- 3) 各会場の感染予防対策は次の通り

神戸ポートピアホテル <https://www.portopia.co.jp/information/detail/146/>

アリストンホテル神戸 <https://www.ariston.jp/kobe/guidline/>

④来場者間の密集回避

<チェック項目>

- 入退場時の密集を回避するための措置（入場ゲートの増設や時間差入退場等）の実施
- 休憩時間や待合場所での密集も回避するための人員配置や動線確保等の体制構築
- 人と人が触れ合わない間隔の確保

<具体的な対策>

- 1) 1日目の「全体受付」では、①（参加人数区分の多い開催地）兵庫同友会会員受付時間を9:30～13:00までとして来場時間の分散を行う、②各地会員受付は受付手順を簡略化（名札・会場案内のみ渡す）すると同時に、一方通行として滞留人数と滞留時間を減少させる。
- 2) 1日目の「分科会受付」ではチェックインのみとして、参加者に渡す資料や名簿は座席にあらかじめ用意する。着席する分科会グループはあらかじめ名札に印字を行い、案内時間を短縮する。
- 3) 分科会の休憩時間、および終了時間での参加者の密集を避けるために、分科会の進行時間の調整を行う。（休憩時間、終了時間をずらす）
- 4) 1日目に受付済の参加者は、2日目の受付（チェックイン）を行わない。

⑤ 飲食の制限

<チェック項目>

- 飲食可能エリアにおける感染防止策（飲食店に求められる感染防止策等を踏まえた十分な対策）の徹底
- 長時間マスクを外す飲食は、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、可能な限り、飲食専用エリア以外（例：観客席等）は自粛（ただし、発声がないことを前提に、飲食以外の会話時の適切なマスク着用の推奨ができる環境においてはこの限りではない）
- 飲食以外の会話時の適切なマスク着用の推奨
- 県の要請に従った飲食・酒類提供の可否判断（提供する場合には飲酒に伴う大声等を防ぐ対策を検討）

<具体的な対策>

- 1) （当初予定していた）「懇親パーティ」および「交流のひろば」は中止する。
- 2) 「青年経営者のつどい（希望者による食事会）」は飲食以外の会話時の適切なマスクの着用（マスク会食）に同意した事前登録制として、指定テーブルへの着席・個別配膳形式での開催とする。（※当日など追加の参加登録は受けつけません）
- 3) 「青年経営者のつどい」のマスク会食は、事前の同意のほか、司会からの呼びかけ、案内グッズの作成、実行委員による会場内の確認（改善がみられない場合は退席をお願いする）を行う。
- 4) 「青年経営者のつどい」は、受付（検温・アルコール消毒）を3か所設置して密を防ぐ、余興などのプログラムは行わず短時間（90分）で終了する。

- 5) その他、感染予防対策は会場の知見に基づき、協力して対応する。
- 6) 開会前の昼食時（打合せ）も、上記と同じ対応（マスク会食）を徹底する。

⑥出演者等の感染対策

<チェック項目>

- 有症状者（発熱又は風邪等の症状を呈する者）は出演・練習を控えるなど日常から出演者やスタッフ等の健康管理を徹底する。
- 練習時等、イベント開催前も含め、声を発出する出演者やスタッフ等の関係者間での感染リスクに対処する。
- 出演者やスタッフ等と観客がイベント前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じる（誘導スタッフ等必要な場合を除く）。

<具体的な対策>

- 1) 分科会報告者ならびに実行委員には、日常の健康管理をお願いする。
- 2) 分科会会場の報告者・座長・室長の席にはアクリル板を用意する。（報告時にはマスクを外してもらいます、打ち合わせ時はマスクを着用してもらいます）
- 3) 分科会報告者が欠席した場合は、「分科会報告者欠席時の対応マニュアル」に基づき対応する。
- 4) 当日の分科会打合せ、担当者別打合せでの感染予防対策（マスク会食）を徹底する。

⑦参加者の把握・管理等

<チェック項目>

- チケット購入時又は入場時の連絡先確認やアプリ等を活用した参加者の把握
- 入場時の検温、有症状（発熱又は風邪等の症状）等を理由に入場できなかった際の払戻し措置等により、有症状者の入場を確実に防止
- 時差入退場の実施等イベント前後の感染防止の注意喚起

<具体的な対策>

- 1) 参加者は事前登録を行い、参加分科会およびグループを把握するほか、当日の分科会会場でグループごとに参加者の健康状態と実際の参加グループの確認を行う。
- 2) 参加者アンケートでは、1日目分科会の参加分科会と参加グループ、2日目全体会の座席の入力を行う。
- 3) 当日のガイドブックおよび1日目分科会開会時に、新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の登録を呼びかける。
- 4) 参加者には出席・欠席を問わず、全分科会の報告記録集を配布する。（体調不良時には勇気をもって、欠席や退室をお願いする）

2. クラスターの発生や参加者から感染者が認められた場合の対策

① クラスターの発生や感染防止策の不徹底などの問題が生じた場合（兵庫県イベント制限）

<具体的な対策>

- 1) 催したイベントにおいて、クラスターの発生や感染防止策の不徹底などの問題が生じた場合は速やかに兵庫県に報告を行う。
報告内容：イベント結果報告フォーム
提出先：兵庫県新型コロナウイルス感染症対策本部事務局

② 参加者から感染（感染の懸念）が認められた場合（中同協対応ガイドライン）

<具体的な対策>

- 1) 次の手順で情報の集約を行います。
感染した参加者 → 所属同友会事務局長 → 中同協事務局長・兵庫同友会事務局長
- 2) 感染した参加者が、イベント参加時に感染していたかどうかはわかりません。また、濃厚接触者の定義は「感染防止対策（お互いにマスク着用等）なしに1m以内で15分以上接触があった場合」「陽性者の体液などに直接接触した可能性が高い人」です。陽性になられたご本人が一番苦しい思いをされておられますので、いたずらな詮索などは控えるようにお願いします。参加者のみなさんには、ご不安やご心配をおかけしますがよろしく願いいたします。
- 3) 次の手順で情報を共有します。
 - ①（感染された方と濃厚接触者となる参加者へのご連絡）
中同協事務局長・兵庫同友会事務局長 → 該当会員所属の事務局長 → 該当参加者
 - ②（イベントでの感染者の状況（各地同友会・事務局での共有））
中同協事務局長・兵庫同友会事務局長 → 各地事務局長（e.doyu または ML）
- 4) 共有する内容は次の通りです。
 - ・濃厚接触となる可能性のある状況（例えば、青年経営者のつどいでのグループ）
 - ・健康管理や体調の変化にご留意頂き、体調や状況に応じて検査等もご検討下さい※感染された参加者の所属同友会、会社名・お名前はお伝えしません。

3. その他

- ① イベント当日までに、イベント開催時のチェックリストを作成し、イベントホームページで公表します。

第50回青全交 <https://www.hyogo.doyu.jp/lp/seizenkou2022.html>

- ② チェックリストはイベント終了日から1年間保管します。
- ③ 参加者情報は行事運営ならびに感染予防対策のために活用し、それ以外は使用することはありません。（チェックリストと同じく1年間保管後、責任をもって廃棄します）

以上